

8月定例記者会見の概要

- 1 日 時 令和6年8月5日（月）10時00分～11時00分
- 2 場 所 本庁舎3階 第一会議室
- 3 出席者 <報道機関>
 - ① 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
 - ② 毎日新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
 - ③ 朝日新聞社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
 - ④ 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑤ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑥ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑦ 時事通信社 福島支局（南相馬記者クラブ会員）

計 7 社

< 市側 >

・市長・総務部長

(テレビ会議)

・新田副市長・教育長

・小高区役所長・鹿島区役所長・市民生活部長

・健康福祉部長・こども未来部長・商工観光部長

・商工観光部企業立地担当理事・農林水産部長

・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 15 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

はじめに、女性活躍推進事業についてです。

本市の20代～40代の女性は、大震災前と比較して大幅に減少し、男性人口と比較しても女性人口の減少は著しい状況にあります。この世代の女性が自分らしく暮らし、働くことは、本市の活力になると考えています。また、令和6年度から、女性活躍推進法にもとづく計画も兼ねた第4次南相馬市男女共同参画計画がスタートしました。

こうした背景から、7月13日に、女性が職場・家庭・地域などで、自分らしく生きていくことを後押しする「“未来の私”が楽しくなるワークショップ」を、本市として初めて開講しました。

ワークショップには22人が参加しており、女性が前向きに、さらに輝いていけるよう、自己理解やフィールドワークなどから学んでいく予定です。

次に、北泉海水浴場についてです。

7月13日、北泉海水浴場において海開きが行われました。2日現在で、1万816人にご利用いただいています。

また、7月27日には「サマーフェスタ 2024in 北泉」が盛大に開催され、前年より3千人多い1万8千人にご来場いただきました。

連日、暑い日が続きます。北泉海水浴場の冷たい海水につかれば、夏の暑さを忘れることができ、リフレッシュできます。

海水浴場の設置は、8月18日までです。夏の思い出作りに、ぜひ北泉海水浴場へお越しください。

次に、少年の主張についてです。

中学生が、将来の夢や社会への提言などを発表する「少年の主張 南相馬市大会」を7月16日にサンライフ南相馬で開催しました。市内の中学生12名が自分たちの思いを力強く発表しました。

最優秀賞に選ばれた、原町第一中学校、原町第二中学校、小高中学校の計4名は、9月26日の県大会の出場候補として推薦されます。

次に、ペンドルトン市派遣団についてです。

姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ペンドルトン市の学生6人が7月17日から28日まで本市を訪問し、サーフィン体験や福島ロボットテストフィールドの見学などを行いました。

本市からは高校生6人の派遣団が8月7日に出発します。現地の学生と交流を深めるなどして、8月21日に帰国する予定です。

今後もペンドルトン市と南相馬市との恒久的な友好・親善・交流の一層の進展を図ってまいります。

次に、南相馬市新庁舎建設についてです。

市では、新庁舎の基本設計が完成したことを受け、7月21日にサンライフ南相馬で説明会を開催いたしました。

今後、実施設計の予算を9月定例議会に予算計上する予定とし、令和8年10月着工、令和11年5月の開庁を目指します。

次に、内堀雅雄県知事の本市視察についてです。

7月24日、内堀知事に南相馬市産業創造センターを視察いただき、本市に拠点を置く航空・宇宙産業企業である、

- スペースエンターテインメントラボラトリー
- インターステラテクノロジズ
- エレベーションスペース

の3社から、事業の内容や現在の取り組みなどの説明を受けました。

本市においては、これまでのドローンやロボット関連企業に加えて、航空・宇宙産業企業の動きが市内で活性化してきています。こうした状況を知事にご覧いただき、「県としても、国と連携をしながら、こういったスタートアップ企業の育成支援を継続していきたい。今後も頑張っていきたいと思います」とエールを頂きました。

次に、中学生海外研修についてです。

市内の中学2年生21人がオーストラリアで海外研修を行うため、8月1日に出発式を執り行い、オーストラリアに向けて出発しました。今回の研修は、ホームステイを中心とした4泊7日の日程となっており、7日に帰国する予定です。

また、3月には、シンガポールでの海外研修を行う予定です。こちらは定員を25人としており、今後募集する予定です。

研修を通じて海外の文化に触れ、広い視野を持った、未来を担う人材となってくれることを願っています。

次に、要望書の提出についてです。

8月2日に、復興庁と経済産業省、さらには自民党及び公明党の東日本大震災復興加速化本部を訪れ、要望書を手交しました。

原子力災害からの復興は道半ばです。市を取り巻く状況を踏まえて、第2期復興・創生期間後の復興の体制及び財源の確保、新たに生じた課題に対する支援などを要望いたしました。

今後も復興に向けた各種課題の解消に向け、国や関係機関へ積極的に市の意向を伝えてまいります。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、福島スペースカンファレンスについてです。

8月9日、実行委員会と市は、昨年に続き浮舟文化会館をメイン会場に「福島スペースカンファレンス2024」を開催いたします。

宇宙産業に関連するテーマに基づくトークセッションや、参加者同士の交流会を通じて、南相馬から宇宙産業全体を盛り上げることを目指します。

次に、夏のイベントについてです。

8月10日に鹿島区で「かしまのなつまつり」、8月17日に小高区で「おだか夏まつり」が開催される予定です。

ぜひご来場ください。

次に、親子スポーツバイキングについてです。

市では、誰もが気軽に楽しめる健康スポーツ教室を毎月1回開催しています。8月は、8月17日にまるさん・あったまるアリーナで、親子を対象とした健康スポーツ教室として「親子スポーツバイキング」を開催します。

ボールをスティックで打って点数を競う「スカットボール」や、フライングディスクを飛ばして何投でゴールできるかを競う「ディスクゴルフ」など、様々なニュースポーツを、バイキングのように体験できます。

事前申込は不要です。ぜひ親子でご参加ください。

次に、ベビーファースト宣言についてです。

公益社団法人日本青年会議所では、子育て世代が子どもを産み育てたくなる社会の実現を目指すため「ベビーファースト運動」を提唱しています。

本市もこの運動の趣旨に賛同し、令和4年度から毎年、市内の企業とともに活動への参画を宣言しています。

今年も、市と一般社団法人原町青年会議所では8月23日に、新たに運動に加わる企業とともに、活動宣言セレモニーを開催いたします。

企業や団体の皆様とともに、子育て世代が子どもを産み育てたくなる社会の実現に向けて取り組んでまいります。

【質疑応答】

質問1:

女性活躍推進事業とベビーファースト宣言は、具体的にどのような取り組みをしていくのでしょうか。

回答1: 市長

女性活躍推進事業は、市政に対する関心を持つ女性や、幅広い年齢層の方々に市政に参加していただきたいという思いから始まりました。

これまで懇談会に参加いただく方は主に年配の方で、若い女性の参加は少ない傾向にありました。

ここ最近、市の復興事業が落ち着き、これからは新しいことにチャレンジしていくための基盤づくりの時期と考えています。その中でも、子育て世代が暮らしやすいまちづくりを進めていく上で、若い女性がまちづくりに興味を持ち、意見を寄せる機会をつくりたいという思いがありました。

そのような背景から始まったのが今回のワークショップです。市の職員が、さまざまな女性に意見を聞いたところ、「自分磨きをやってみたい」という方がたくさんいらっしゃいました。それに対応する形で、このワークショップでは、女性の皆さんが「自分たちが元気であるために何ができるか」を仲間と話し合ったり、市政に興味を持つ機会を提供したりします。

ベビーファースト宣言については、みらいづくり1.8プロジェクトの一環として、原町青年会議所の活動に賛同する形で取り組んでいるものです。

質問2:

市の管理職で女性が占める割合を教えてください。まずは、市職員の女性の活躍の場を広げていくことも、女性活躍推進のひとつではないかと思えます。

また、ベビーファースト宣言の活動について、市が財源措置を行う予定はありますか。

回答2: 市長

本市の係長以上の管理職における女性の割合は現在、約20%で、令和7年度までに約30%達成を目標としています。ただし、昇進は順当に進めていくのではなく、研修を行うなどの準備を計画的に行いながら進めていくものですので、人財育成とセットで考えたいと思っています。

子育てしやすいまちづくりのために、お金をかける必要がある施策と、市民の皆さんと一緒に作り上げていく施策の両方が必要です。

お金をかける必要がある施策としては、保育料と18歳までの医療費、給食費の3つを無料化しています。加えて、在宅保育支援金や、産休・育休を取得した個人とその事業所への一部援助も実施しています。

一方で、「ベビーファースト宣言」は市民の皆さんと一緒に作り上げていく施策として、まず「こども・子育て応援条例」では、こども・子育てに関する取り組みは、行政だけではなく保護者や市民、事業所などもそれぞれ役割があり、それぞれが一体となって取り組むこととしています。市民の皆さんと一緒に作り上げていく具体策として、市全体が一体となって子育てを応援する機運を醸成するためにベビーファースト宣言に賛同して取り組んでいるところです。

質問 3:

北泉海水浴場の利用客は8月2日時点で1万816人とのことですが、昨年と比較して多いのでしょうか。

回答 4: 総務部長

7月30日時点で、昨年は1万424人でしたが、今年は1万132人です。今年は2日早く海水浴場が開設されましたが、昨年と比較して300人程度減っている状態です。現在のペースですと昨年よりやや少ない見込みです。

以上